

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる、地域に根ざした学校をめざす。 1. 基本的生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。 2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。 3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量を高め、ものづくり教育の充実を図る。 4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった社会に貢献する多様な人材を育成する。
--

2 中期的目標

1 豊かな社会性をもった人間の育成 (1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心を育成するとともに、社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識を醸成する。 ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。 ※5年前の平成 18 年度には 7000 を超えていた遅刻数は、平成 23 年度には 1400 と大幅に減少した。この数字を毎年 100 ずつ引き下げ、平成 26 年度には 1000 にする。 (2) 教育相談を中心に、個々の生徒への支援体制を強化する。 ア 教育相談を中心に、生徒が気軽に悩みなどを相談できる体制を再構築する。 ※生徒向け学校教育自己診断の「相談体制」に関する項目における満足度（平成 23 年度 37％）を毎年 4％引き上げ、平成 26 年度には 50％にする。
2 確かな学力への取り組み (1) 「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。 ア 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用して基礎学力の定着を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。 ※生徒向け授業アンケートにおける満足度（平成 23 年度 82％）を維持する。
3 ものづくり教育の充実 (1) 望ましい勤労観・職業感の育成をめざしキャリア教育を推進する。 ア 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用して、できるだけ多くの生徒がインターンシップに参加するように努め、望ましい勤労観・職業感の育成を図るとともに、人間としての在り方・生き方に関する教育を推進する。 ※インターンシップへの参加生徒数（平成 23 年度 23 人）を毎年 33％ずつ増やし、平成 26 年度には倍増する。 (2) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。 ア 保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。 ※資格の取得者や検定試験の受験者数（平成 23 年度 1236 人）及び合格率（平成 23 年度 62％）を維持する。 (3) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。 ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。 ※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計（平成 23 年度 8 回）を毎年 25％ずつ増やし、平成 26 年度には 14 回にする。 (4) 「城工房」の活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざす。 ア 豊かな創造力や問題解決能力の育成を図るなど、起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」をいっそう推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。 ※平成 26 年度までに新商品の開発・販売などを行う会社（ＬＬＣ法人）を卒業生を中心に設立し、地元企業と連携しながら運営する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 24 年 12 月実施分〕	学校協議会からの意見
<生徒と教員ともに肯定的な回答が少なかった 2 項目> ・「自分の将来を考える機会が充実している」と回答した生徒は 60％、そう感じている教員は 64％にとどまっている。HR やキャリア教育の充実を図る必要がある。 ・校内の清掃状態について、肯定的な回答が、生徒は 59％、教員は 54％となっている。来年度からは、校内全体で美化運動に取り組んでいきたい。	第 1 回（10 月 3 日） ①学校経営計画について 「学校の状況をしっかりと分析し、それに基づいた分かり易い計画である」との意見が出され協議の結果、了承されました。 ②学校教育自己診断の診断内容について 「目的が明確になった」「生徒・保護者・教職員の比較を試みるなど、昨年に比べ大きく改善されている」等の意見が出され協議の結果、了承されました。
<生徒と教員の回答に隔たりがあった 2 項目> ・「学力が身についた」と回答した生徒は 72％であるのに対し、教員は 36％となっている。生徒は実習に教員は座学に重点を置いて回答しているようである。座学の授業の充実を図る必要がある。 ・「授業は分かりやすい、おもしろい」と回答した生徒は 52％であるのに対し、「分かりやすい授業を行うため、創意工夫を凝らしている」と回答した教員は 90％であった。この差が生じた要因の精査と改善策の検討が喫緊の課題である。なお、授業アンケートにおける各授業への満足度の平均値は 88％であり、学校教育自己診断結果の値と大きな差がある。この差異についても分析する必要がある。	第 2 回（1 月 24 日） ①学校経営の自己評価（1 月時点暫定案）について ・全般的に、概ね評価できる。 ・基礎学力診断テストで最も下位の層の生徒数が半減したというのは、大きな成果である。この層の生徒数の減少を、来年度の目標の 1 つにすることを検討されたい。 ・インターンシップへ参加する生徒を増やすようさらに努力してもらいたい。そのためにも、校内発表会の実施などを検討されたい。 ②学校教育自己診断の診断結果について ・予想以上に良い数字が表れているのではないか。今後も更なる向上に努められたい。 ・「自分の将来を考える機会が充実している」と回答した生徒は 60％、そう感じている教員は 64％にとどまっている。さらなるキャリア教育の充実にも努められたい。 ・校内の清掃状況に対する評価が低い。学校全体での清掃活動を期待する。 ・「学力が身についた」と回答した生徒は 72％、教員は 36％であった。また、「授業は分かりやすい、おもしろい」と回答した生徒は 52％、「分かりやすい授業を行うため、創意工夫を凝らしている」と回答した教員は 90％であった。生徒と教員の間のギャップを埋めるように努められたい。しかし、多少のギャップがあってもおかしくはないとも言える。元々、多少のギャップがあるものだと考えるべきだ。
<その他> ・「先生は校則を守らない生徒や生活態度の悪い生徒に対して、注意している」と回答した生徒の割合は、全設問中二番目に高かった。学校全体で生徒指導に取り組んできた成果といえる。	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな社会性をもった人間の育成	（１）相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心の育成と社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識の醸成 ア 「笑顔のあいさつ運動」の推進 イ 遅刻指導の推進 （２）教育相談を中心とした個々の生徒への支援体制の強化 ウ 教育相談を中心とした支援体制の再構築	ア・毎朝校門で校長と教職員が実践するとともに、集会のたびに必ず「笑顔のあいさつ運動」を取り上げ生徒の意識を喚起する。 イ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年による早朝登校指導を実施する。 ウ・教育相談体制を再構築するなど、生徒が気軽に悩みなどを相談できる雰囲気を醸成する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「あいさつ・身だしなみ・言葉づかい」への肯定率 45％（平成 23 年度 40％） イ・遅刻数 100 減少（平成 23 年度 1400） ウ・生徒向け学校教育自己診断の相談体制に関する項目における満足度 41％（平成 23 年度 37％）	ア・「あいさつ・身だしなみ・言葉づかい」への肯定率は 58％（※）であった。目標の 45％を達成することができた。次年度も地道に取り組んでいきたい。（◎） イ・登校時刻を 8:40 から 8:30 に厳しくしたにもかかわらず、目標を大きく上回ることができた。次年度も現在の取組みを継続していきたい。（遅刻数 1076、◎） ウ・相談室の整備や生徒への周知に努め、満足度は 76％（※）であった。目標の 41％を達成することができた。（◎） ※ 学校教育自己診断の診断項目の表現などを少し変更したため、単純比較はできないが、一定の成果があったことは読み取れる。
2 確かな学力への取り組み	（１）「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善への取り組み ア 基礎学力の定着 イ 授業改善の推進	ア・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業の援助により「学び直し教材」や「基礎学力診断テスト」を導入し、基礎学力の定着に努める。 イ・授業公開期間中に若手教員を中心とする勉強会を実施し、若手教員の育成の場とする。また、授業アンケートや少人数展開授業の効果測定を実施し、そこから見えてくる課題について各教科・系で検討し、授業改善に反映させる。	ア・基礎学力診断テストにおいて、「高校卒業で就職した場合、企業から要求される学力」レベルに達していない 1 年生の 20％削減 イ・生徒向け授業アンケートにおける満足度の維持（平成 23 年度 82％）	ア・目標の 20％削減に対し、10％の削減であった。しかし、最も下位の層の生徒数が半減するなど、一定の効果が表れている。次年度も、基礎学力の定着に努めていきたい。（△） イ・若手教員を中心とした勉強会の実施や授業アンケートの活用などさまざまな授業改善に取り組んだ結果、生徒向け授業アンケートにおける満足度は 88％となり、目標を大きく上回ることができた。次年度も現在の取組みを継続したい。（◎）
3 ものづくり教育の充実	（１）望ましい勤労観・職業感の育成をめざしたキャリア教育の推進 ア インターンシップの推進 （２）ものづくりのための実践的な技術力向上への取り組み イ 各種資格取得や検定試験の推奨と講習の充実 （３）生徒のモチベーションの高揚とものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒の育成 ウ 成果発表の場やさまざまな競技会などへの生徒の参加、および「ものづくり教室」や「出前授業」の充実 （４）「城工房」の活動を通した、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりの推進 エ 起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」のいっそうの推進	ア・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用して、できるだけ多くの生徒がインターンシップに参加するように努める。 イ・保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。 ウ・成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなどで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。 エ・豊かな創造力や問題解決能力の育成を図るなど、起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」をいっそう推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。	ア・インターンシップへの参加生徒数の 33％増加（平成 23 年度 23 人） イ・資格の取得者や検定試験の受験者数（平成 23 年度 1236 人）及び合格率（平成 23 年度 62％）の維持 ウ・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計の 25％増加（平成 23 年度 8 回） エ・新商品の開発・販売などを行う会社（ＬＬＣ法人）の設立	ア・目標の 33％増加に対し、17％の増加にとどまった。インターンシップを自由選択科目として単位認定する制度を今年度から導入したが、さらに周知し参加生徒数の増加に努めていきたい。（△） イ・学校全体で取り組んだ結果、受験者数（1216 人）及び合格率（61％）ともに、ほぼ目標を達成することができた。次年度も現在の取組みを継続したい。（○） ウ・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計は 10 回となり、目標の 25％増を達成することができた。これらの取り組みを実施することによって、生徒のモチベーションを高め、本校のアピールともなるので、次年度も現在の取組みを継続していきたい。（○） エ・卒業生を中心に、新商品の開発・販売などを行う会社（ＬＬＣ法人）を設立した。また、今年度から「城工房」の活動の一部を自由選択科目として単位認定する制度を教育課程に導入したので、生徒への周知を図りながら、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりのために「城工房」をいっそう推進していきたい。（○）